

2021年度第1回東京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 銀蹄ステークス

銀蹄（ぎんてい）は、銀の蹄鉄のこと。蹄鉄は、馬の蹄（ひづめ）に打ちつけ、蹄の摩滅や損傷を防ぐ装具。

○ クロッカスステークス（L）

クロッカス（Crocus）は、地中海沿岸および小アジア原産のアヤメ科の球根植物。サフランに似ていることからハナサフランとも呼ばれる。花言葉は「青春の喜び」「切望」。

○ 白富士ステークス（L）

白富士（しらふじ）は、積雪により山頂付近が白くなった富士山のこと。晴天の日には、東京競馬場からも見事な白富士を望むことができる。

<第2日>

○ セントポーリア賞

セントポーリア（Saintpaulia）は、アフリカ原産のイワタバコ科の多年草。名は、発見者であるセントポールにちなんで名付けられた。花は左右対称の合弁花で、紫色または薄紫色を呈する。花言葉は「深窓の美女」「小さな愛」。

○ 節分ステークス

節分（せつぶん）は、季節の変わり目、立春・立夏・立秋・立冬の前日のこと。特に立春の前日を指す場合が多い。この日の夕刻に鬼打ちの豆まきをして邪気を払う習慣がある。

○ 根岸ステークス（GⅢ）

本競走は、昭和62年に創設された重賞競走。当初は、ダート1400mで行われていたが、平成2年から1200mに短縮された。13年には再び1400mとなり、実施時期も11月から現在の時期に変更となった。なお、第1着馬には同年のフェブラリーステークスへの優先出走権が与えられる。

根岸（ねぎし）は、横浜市中区の地名。江戸時代末期に日本初の近代競馬場である根岸競馬場が設置され、昭和17年まで競馬が実施されていた。現在、跡地は根岸競馬記念公苑として整備されており、「馬の博物館」などがある。

<第3日>

○ 春菜賞

春菜（はるな）は、春に摘んで食用とする野草。春の七草を総称して春菜と呼ぶことも多い。

○ テレビ山梨杯

テレビ山梨は、山梨県甲府市に本社を置く放送局。昭和45年開局で、TBS系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 早春ステークス

早春（そうしゅん）は、春の初めの意。2月から3月初めの頃を指す。

<第4日>

○ ゆりかもめ賞

ゆりかもめ（百合鷗）は、ユーラシア大陸に広く生息するカモメ科の鳥。日本では、冬鳥として全国の海岸や河川で見られる。東京都の鳥に指定されており、臨海新交通の名称にもなっている。

○ 白嶺ステークス

白嶺（はくれい）は、山の頂が雪に覆われて白くなっている様。

○ 東京新聞杯（GⅢ）

本競走は、昭和26年に創設された重賞競走。当初は『東京杯』の名で天皇賞（春）の前後に行われていた長距離の競走であったが、41年に現在の名称・実施時期に変更された。その後、徐々に距離が短縮され、59年に現在と同じ1600mとなった。一時期はハンデキャップ戦として実施されていたが、56年以降は別定重量戦で実施されている。

東京新聞は、中日新聞社東京本社が発行する日刊紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第5日>

○ 箱根特別

箱根(はこね)は、神奈川県南西部の町。箱根町と静岡県函南町の境に位置する箱根峠は、かつて東海道の難所として知られていた。芦ノ湖、仙石原などの見所も多く、日本屈指の観光地となっている。また、古くから温泉街として知られ、早川沿いには湯本、塔ノ沢などの温泉がある。

○ 雲雀ステークス

雲雀(ひばり)は、スズメ目ヒバリ科に属する鳥。茶褐色をしており、頭の上に冠羽(かんう)と呼ばれるとさかのような羽を持つのが特徴。春を告げる身近な野鳥として親しまれているが、近年の土地開発によりその数は減少しつつあり、保護活動も行われている。また、府中市の鳥に指定されている。

○ デイリー杯クイーンカップ (GⅢ)

本競走は、昭和41年に創設された3歳牝馬限定の重賞競走。創設時は1800mで実施されていたが、46年からは桜花賞と同距離の1600mで実施されている。

デイリースポーツは、神戸市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第6日>

○ 初音ステークス

初音(はつね)は、その季節に初めて鳴く鳥の声のこと。一般的には春告鳥(はるつげどり)とも呼ばれるウグイスの鳴き声を指す。

○ バレンタインステークス

バレンタイン(Valentine)は、3世紀にローマで殉教したテルニーの主教聖ヴァレンティヌスの記念日。2月14日とその日にあたる。西洋では恋人や友達、家族が互いにお菓子やカード、花束などを交換するのが一般的であり、日本では、女性から男性にチョコレートを贈る習慣が定着している。

○ 共同通信杯（GⅢ）（トキノミノル記念）

本競走は、昭和 42 年に創設された『東京 4 歳ステークス』を前身とする重賞競走。58 年に『共同通信杯 4 歳ステークス』へ改称し、平成 13 年の馬齢表記の変更に伴い、現在の名称となった。なお、昭和 44 年からは、副題として『トキノミノル記念』が付されている。

トキノミノル号は、26 年の皐月賞、東京優駿（日本ダービー）の優勝馬で、戦績は 10 戦全勝。その戦績を称え、59 年に顕彰馬に選出された。

共同通信社は、東京都港区に本社を置く通信社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 7 日>

○ フリージア賞

フリージア (Freesia) は、アヤメ科の秋植え球根植物。南アフリカの原産。2 月～6 月頃、花茎の上部の片側にユリ形の 6 裂の花を咲かせる。つぼみは下から順次咲き、芳香を放つ。色は黄・白・桃・紅・紫など多彩で、大輪種もある。花言葉は「純潔」「親愛の情」。

○ 金蹄ステークス

金蹄 (きんてい) は、金の蹄鉄のこと。縁起物として用いられる。蹄鉄は、馬の蹄 (ひづめ) に打ちつけ、蹄の摩滅や損傷を防ぐ装具。

○ ダイヤモンドステークス (GⅢ)

本競走は、昭和 26 年に創設された重賞競走。創設当初は中山競馬場の 2600m で実施されていたが、40 年に距離が 3200m となり、62 年からは東京競馬場で実施されている。平成 16 年に 3400m に延伸され、JRA ではステイヤーズステークス (3600m) に次ぐ長距離の競走となった。

ダイヤモンド (Diamond) は、炭素原子のみで構成される鉱物。宝石や研磨剤として使用されている。

<第 8 日>

○ ヒヤシンスステークス (L)

ヒヤシンス (Hyacinth) は、中近東原産のユリ科の球根性多年草。鉢植えなどのほかに水栽培でも生育することができる。花言葉は「勝負」「遊戯」。

なお、本競走は、日本馬を対象とした『ケンタッキーダービー』出走馬選定ポイントシリーズ「JAPAN ROAD TO THE KENTUCKY DERBY」の対象レースとなっている。

○ アメジストステークス

アメジスト (Amethyst) は、紫色の水晶で、2月の誕生石。少量の鉄またはマンガンを含んでいるため紫色になる。主な産地は、ブラジル・ウルグアイ・ザンビアなど。名は、ギリシア神話の酒神バックスと清らかな乙女アメシストの物語に由来する。

○ フェブラリーステークス (G I)

本競走は、昭和59年に創設された『フェブラリーハンデキャップ』を前身とする重賞競走。距離は創設時より1600mで実施されている。その後、平成6年にG IIへ格上げされ、競走名が『フェブラリーステークス』へ改称、負担重量も別定に変更された。さらに9年には、JRA初のダートG I競走となり、負担重量も定量に変更された。

フェブラリー (February) は、2月を意味する英語。

○ 大島特別

大島 (おおしま) は、東京都に属す伊豆諸島最大の島。伊豆大島とも呼ばれる。富士火山帯に属する火山島で、南西部には三原山がある。